

# 相談室だより (みさき) 2018年1月

担当：みさき病院 MSW 金子 宗志郎

新年あけましておめでとうございます。 みさき病院の金子です。新しい年が始まりました。みなさまはどのようなお正月を迎えられたでしょうか？昨年2017年はトランプ大統領の就任に始まり、共謀罪の成立や退位特例法の成立など政治に関する大きな出来事がありました。九州北部豪雨などの自然災害も記憶に新しいですね。まるでここ数年の政治の暴走に自然が怒っているかのように感じます。また、私事ですが2018年は戌年で年男となります。社会人も3年目。益々精進していきますので、今年も宜しくお願ひします。

## 気になる患者さん訪問報告会！

現在みさき病院では、「気になる患者訪問報告会」と題して退院された患者さんが退院後どのように生活されているかの確認を行い、支援の経過を共有するための場を設けています。その中で、今回は私が担当したある患者さんについて報告させていただきます。



### 事例

◇Aさん 80代男性。一人暮らし。

入院される前の生活はご自宅でヘルパーを利用しながら過ごされておりました。ある日の定期受診に来院されず、関係機関でご自宅を訪問すると転倒し動けない状態になっておられました。1週間ほど動けない状態が続き、排泄も土間とペットボトルに行い、食事もとられていませんでした。その後何とか病院受診され、骨折後のリハビリで当院に来られた方でした。

入院後にご自宅へ訪問を行ってみました。自宅は築70年。床は抜け、壁がない部分や天井がない部分があり、床からはタケノコが生えておりました。帰宅後Aさんとこれまでの生活のことや今後のことについて話し合いを行いました。

Aさん「今の家は10歳の時に出来た家でずっとここで暮らしてきた。自分が住まんと家が壊れてしまう。床が抜けたり天井が崩れたりしてきたのは5年ぐらい前からだった。今後もあの家で生活したい。」

Aさんにとっては70年間住んだ家であり、ご兄弟もいらっしゃいましたがご自身で守ってきたという思いから自宅に帰りたいという気持ちがとても強い方でした。しかし、Aさん

の体の動きや自宅の状態を考えると自宅で今後も生活をしていくということは難しいと考えました。そこで、安全で食事なども提供される施設での生活を提案してみました。しかし、なかなか気に入られる施設がなく、今後の生活先をなかなか決定することができませんでした。Aさんの気持ちに向き合ってご自宅で生活を続けていただきたいという思いの反面、環境が整っていないところに帰っていただくわけにはいかないという2つの思いが混じり、1年間悩みながらAさんと話し合いを行いました。するとAさんから「やっぱり自宅での生活は無理かもしれない。もう一度施設を紹介してほしい。」というお話をいただき、最終的には施設へ入所されました。

施設へ入所されてから会いに行ってみると私の顔を見た瞬間笑顔を見せてくださいました。

Aさん「することがなくてやっぱりさみしかこともあるよ。こげんやって1時間でも10分でもよかけん会いに来てくれんね。」とおっしゃいました。

1年間悩みに悩んでAさんと話し合いを続けた結果、Aさんの口から施設を選択するという言葉をいただきました。今回Aさんという男性に出会ったことで相談援助職をする中で大切だと感じたことがあります。それは説得より納得ということです。私たち相談援助職は患者様やご家族様から相談を受けて患者様の立場に立って話し合いをしていくということを大切にしています。しかし、病院という組織の中で働く中ではじっくり時間を取れず、説明したことで自己満足してしまい納得をしてもらっているのか確認不足のことがあるかもしれません。今回は最終的には私からではなく、Aさんから施設のことを話していただけたため私にとって大きな成長だったのではないかと感じています。今後も様々な方との出会いの中でも説得より納得を大切に過ごしていきたいと思えます。



いかがだったでしょうか？皆さんは70年間住み続けた家から施設への決断を行うことができるでしょうか？私はおそらくすぐに決断できないと思います。しかし、将来的には身体が動かなくなった時誰もが直面する現実だと思えます。この機会にご自身の将来のことを考えてみてください。いろんな未来が見えてくるのではないのでしょうか？

今回施設という選択肢を決断して下さったAさんに感謝するとともに、病院から退院されたら終わりではなく地域に帰られてからの生活を見て、今後の相談援助に役立てていけるよう日々努力していきたいと思えます。

ご精読有難うございました！  
2月号へ続く！